NARA PREFECTURE 奈良県

飛鳥宮跡活用検討委員会
第4回委員会資料

飛鳥宮跡活用基本構想(骨子案)

平成29年7月14日

奈良県まちづくり推進局公園緑地課

目　次

1. 飛鳥宮跡の位置・概要　2

2. 飛鳥宮跡周辺の法規制と土地利用の現況　3

3. 飛鳥宮跡の史跡指定及び公有化の現況　4

4. 飛鳥宮跡の現況　5

5. 飛鳥宮跡における景観　①～③　6

6. 飛鳥宮の変遷　9

7. 飛鳥宮跡　発掘調査の概要　10

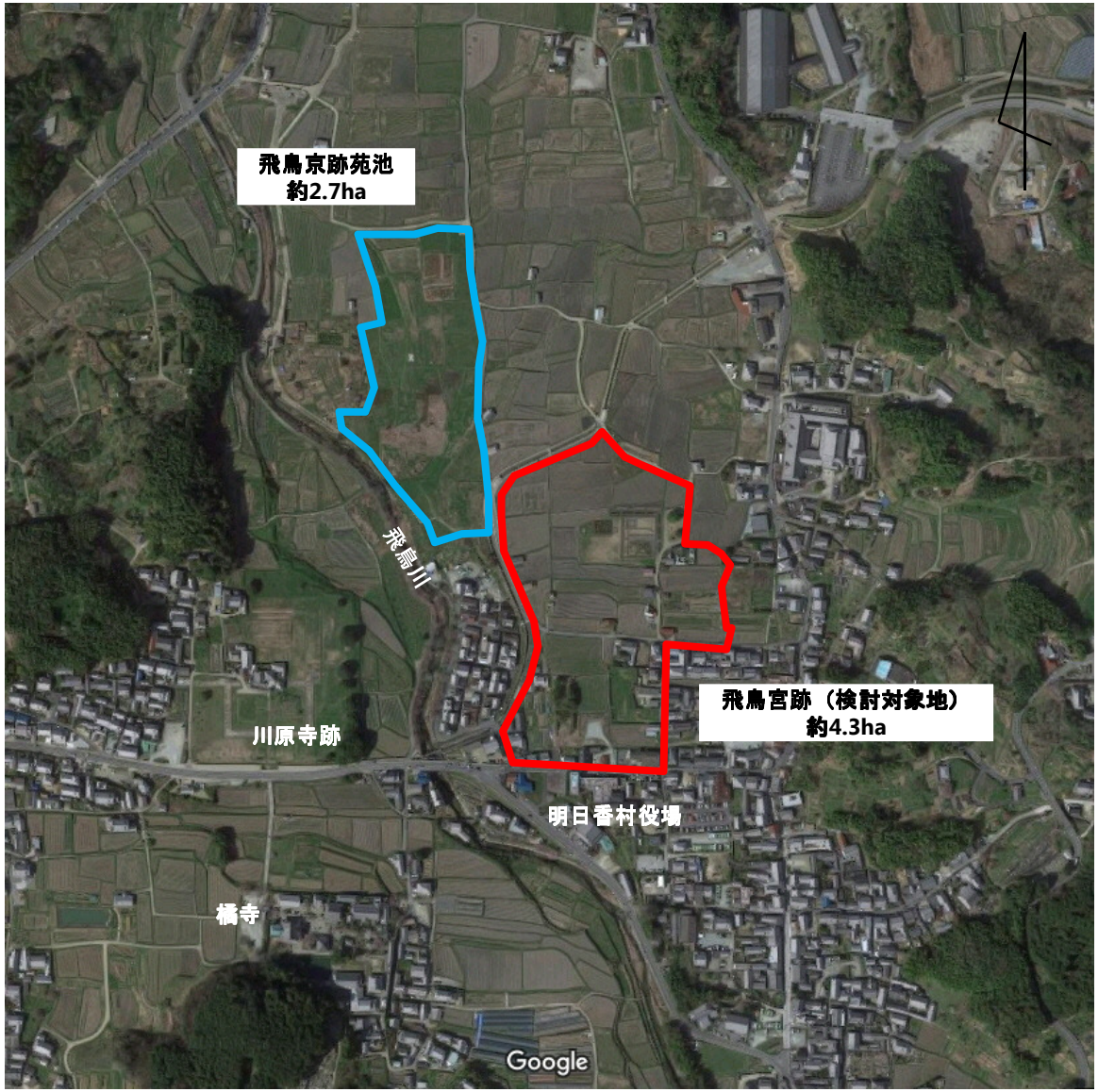
8. 活用の基本方針等について　①～②　11

9. 活用・整備のイメージ　①～③　13

10. 活用・整備の展開例　①～⑩　16

1　飛鳥宮跡の位置・概要

検討の対象としている飛鳥宮跡について整理



- かつて「真神原」と呼ばれた平野部は、多くの宮や寺院が築かれ、飛鳥時代の中心となった地域である。日本国誕生の歴史を物語る数多くの遺跡が点在し、景観も大切に保護されてきた空間である。
- 検討の対象とする地域には、ほぼ同じ場所に重複して宮が造られたことが知られている。これらの遺構はこれまでの調査研究によって、飛鳥岡本宮、飛鳥板蓋宮、後飛鳥岡本宮、飛鳥浄御原宮とされており、これらの宮を総称して、「飛鳥宮跡」という。
- 飛鳥宮跡の北西に隣接して、飛鳥京跡苑池の整備が進められている。

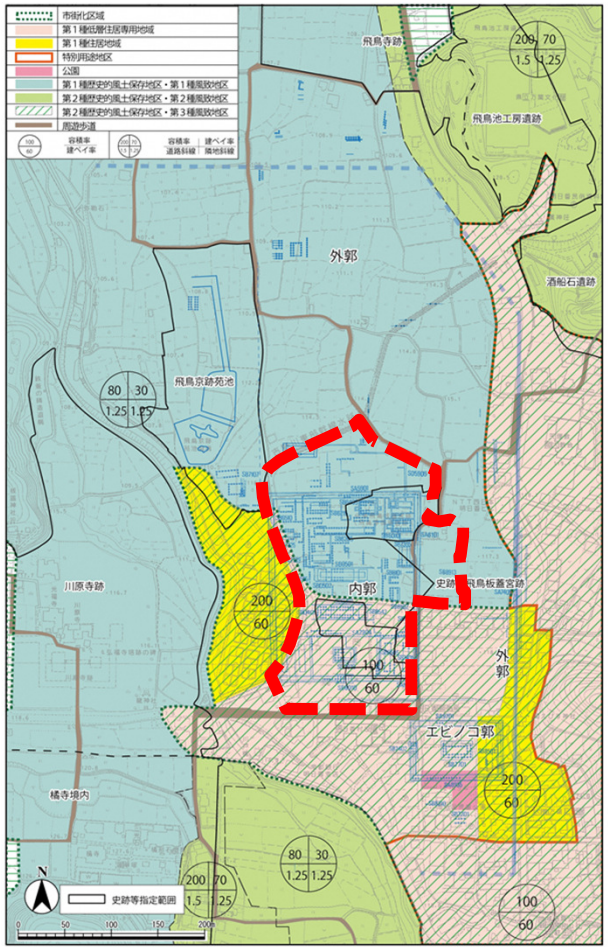
文化財(史跡)指定の状況

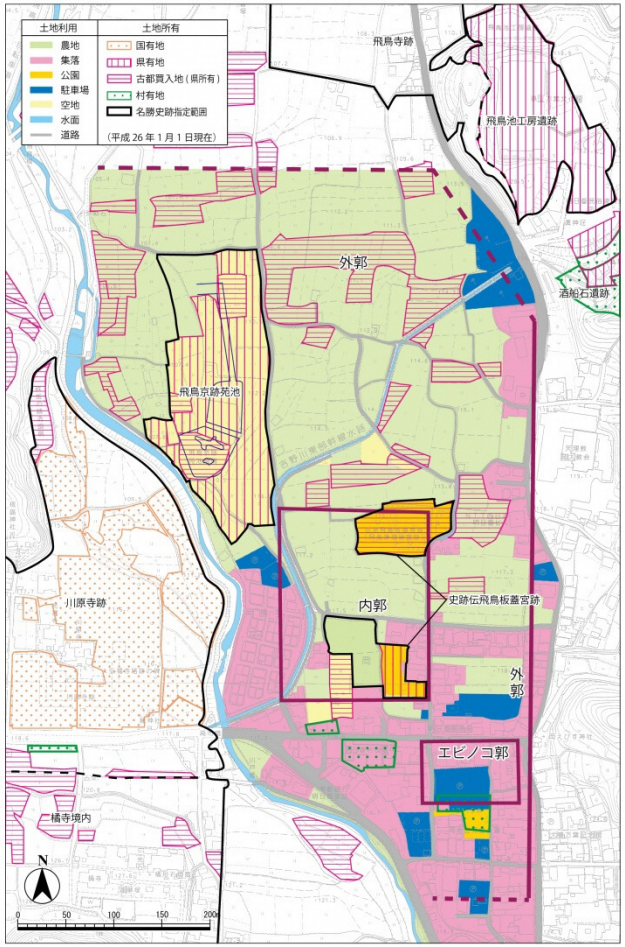
名　称　飛鳥宮跡
所在地　明日香村大字岡
指　定　昭和47年4月10日
　　平成28年10月3日　名称変更
　　（ 伝飛鳥板蓋宮跡 → 飛鳥宮跡 ）

2　飛鳥宮跡周辺の法規制と土地利用の現況

検討の対象としている飛鳥宮跡に係る法規制と土地利用の現況について整理

- 検討対象地の北半分は、市街化調整区域、第１種歴史的風土保存地区で、「重要歴史的景観ゾーン」に指定され、農地が広がっている。
- 南半分は、市街化区域、第１種低層住居専用地域・第２種歴史的風土保存地区で、「市街地賑わい景観ゾーン」に指定され、家屋等が立ち並んでいる。
- 対象地西側から北側は、いわゆる吉野川分水に沿った形状となっている。

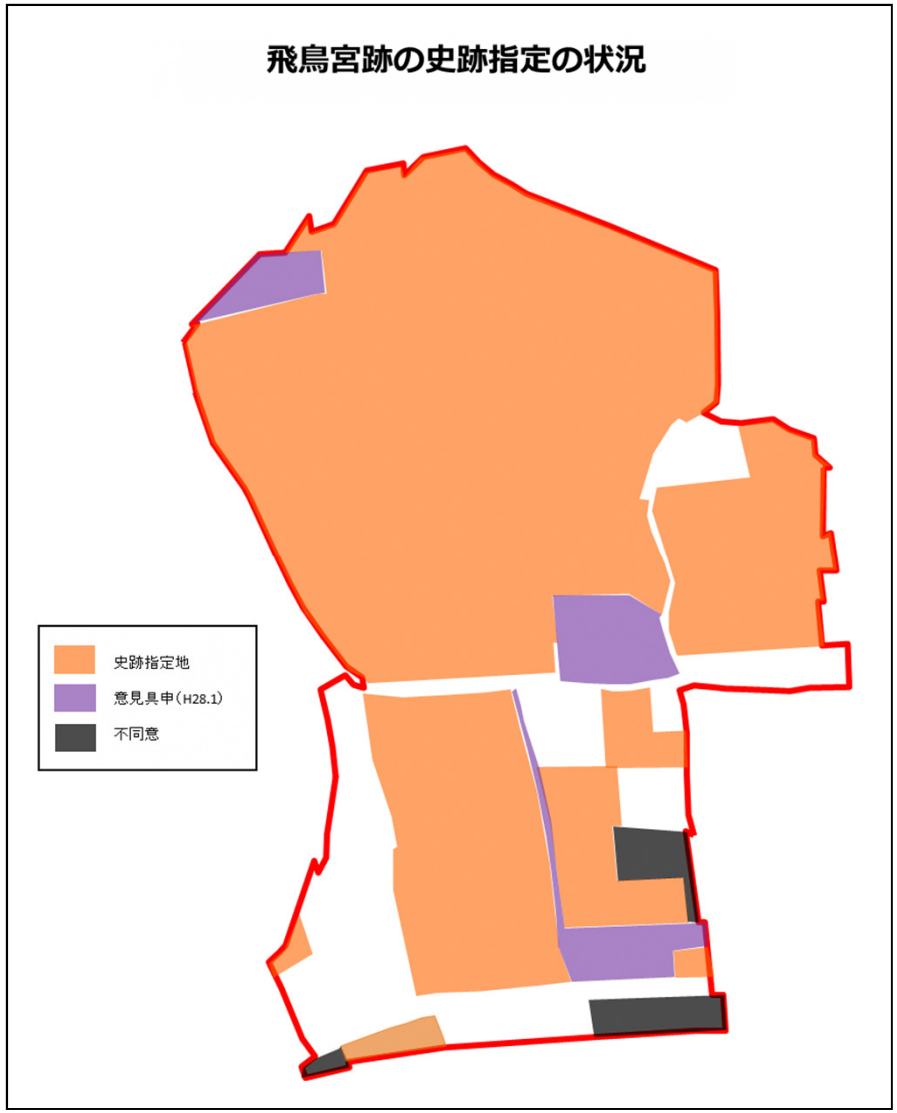


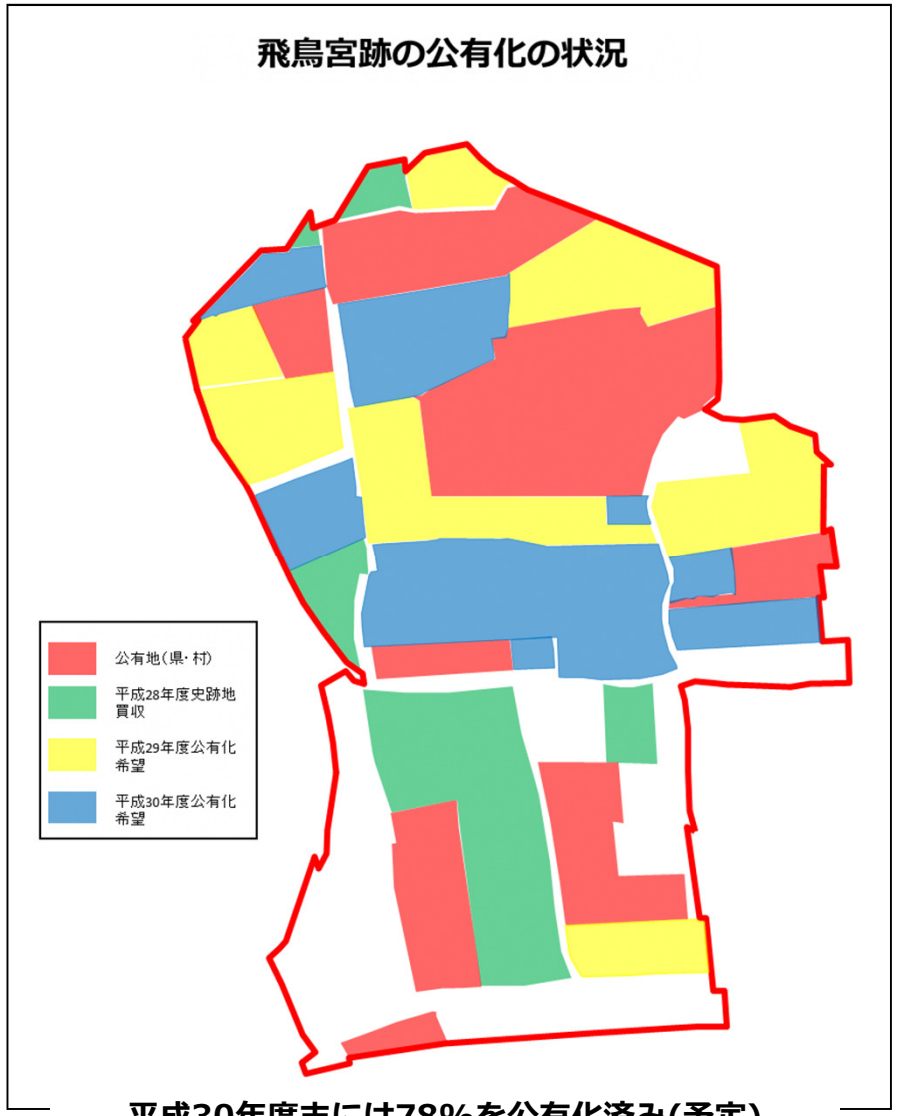


出典：飛鳥宮跡保存活用構想検討報告書（H26.3　明日香村）

3　飛鳥宮跡の史跡指定及び公有化の現況

検討の対象としている飛鳥宮跡の史跡指定や公有化の現況について整理





平成30年度末には78%を公有化済み(予定)